

小松左京の思い出

河内 厚郎の文化回廊



母校の興立神戸高校を訪れた際の小松左京さん。神戸市東灘区東の大通の南校で1995年2月6日大塚幸二撮影

2011年に80歳で亡くなった、SF作家の小松左京といえは、上下巻で400万部を超えるベストセラーとなった『日本沈没』(1973年)があまりにも有名だが、多面的な顔を持つ文化人であり、若い頃には漫画家として活動した時期もあった。

小松左京の遺族が思い出語る

『匿名のない番組』という一風変わったラジオ番組に落語家の桂米朝と出ていたし、テレビにも『小松左京ショー』があったように記憶するが、その実像は案外と知られていないの()へハガキかファクスではなからうか。西宮ス(0797・31・4市の夙川や今津で少年時代を過ごし、神戸一中(須磨育英校)に通

って、新婚時代は甲斐國、その後も阪神各地に住んだから、兵庫とは縁が深い。そんな故人の思い出を遺族の小松美盛さんが、2月4日(月)午後2時から、芦屋市立公民館で語る(聞き手は私)。結婚してから亡くなるまで常に猫と暮らした小松左京の、猫たちまつわる作品を集めた『小松左京の猫理想郷(ネコトピア)』(竹書房)が出版されているが、その中に、美盛さんは猫エッセー「SF一家のネコニクル」を寄せている。

芦屋の映像コレクション

世界食料デー 芦屋大会 現地報告会 ハンガーゼロ わたしから始める、世界が変わる 10月14日/14/16時 /芦屋市公光町/芦屋聖マルコ教会/無料/☎0797・22・5504
マイノリティ理解のための講習会「セクシュアルマイノリティ(LGBT)の理解と支援」 10月21日/13/16時 /芦屋市業平町/芦屋市民センター 401室/無料/講師は宝塚大学看護学部の日高麻晴教授/☎0797・22・0084
芦屋の映像コレクション 昭和初期、六麗荘の家族の生活 阪神大水害80年 記憶を後世に! 10月27日/14/15時半/芦屋市業平町/芦屋市民センター 401室/無料/☎0797・35・0700

まちメディア 芦屋市民の記憶、映像でよみがえる 芦屋市民の昭和の記憶を上映する「芦屋の映像コレクション」が、27日(土)14時~15時30分、芦屋市民センター401室(芦屋)で開かれる。鑑賞会はユネスコ「世界視聴覚遺産の日」に合わせ、2014年から始まった。昭和初期に「六麗荘」に住んでいた家族の日常や1938(昭和11)年の欧州旅行、ベルリン五輪観戦記のほか、谷崎潤一郎の小説「細雪」で描かれたことでも知られる阪神大水害などを映像で紹介する。入場無料。先着100人。In.0797-35-0700、同センター。